

令和5年度 自由研究発表会の総括

1. 自由研究発表会ふりかえりアンケート結果から
2. 表現力における「話し方」「見せ方」の自己評価から

1. 自由研究発表会ふりかえりアンケート結果から

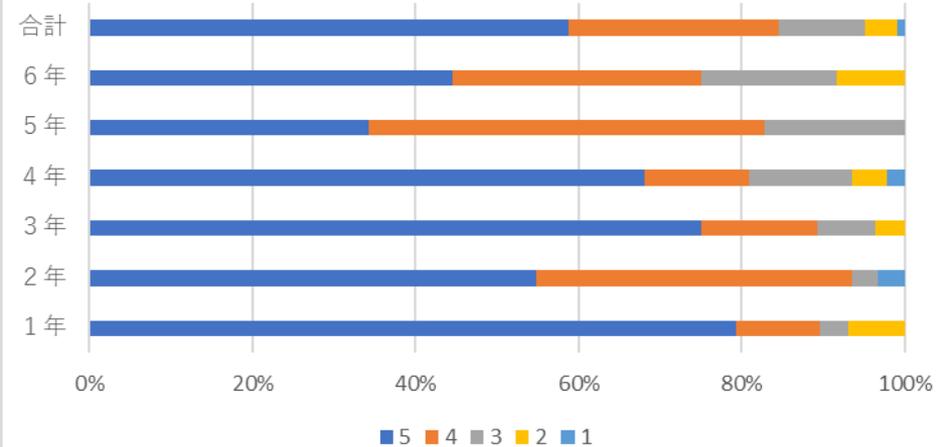
【2】あなたの発表のがんばり度を星の数(1～5)で教えてください。

	平均値
1年	4.6
2年	4.4
3年	4.6
4年	4.4
5年	4.2
6年	4.1
全校	4.4

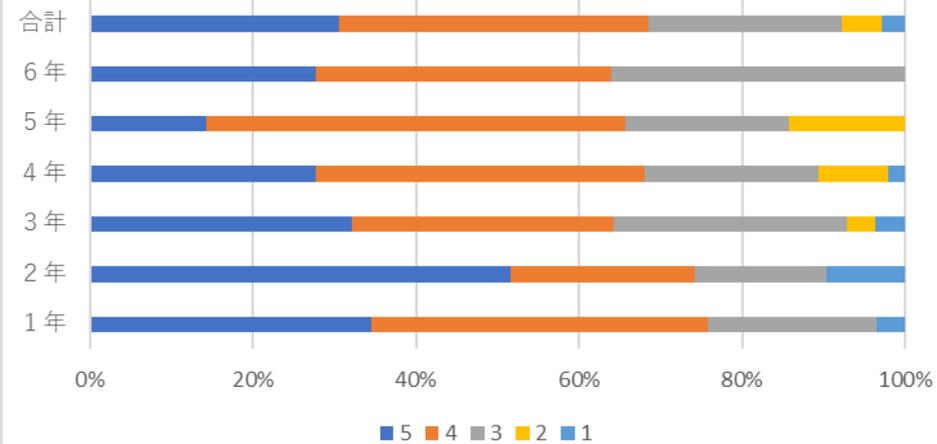
【3】あなたの発表の伝わり度を星の数(1～5)で教えてください。

	平均値
1年	4.0
2年	4.1
3年	3.9
4年	3.8
5年	3.7
6年	3.9
全校	3.9

2. 発表のがんばり度



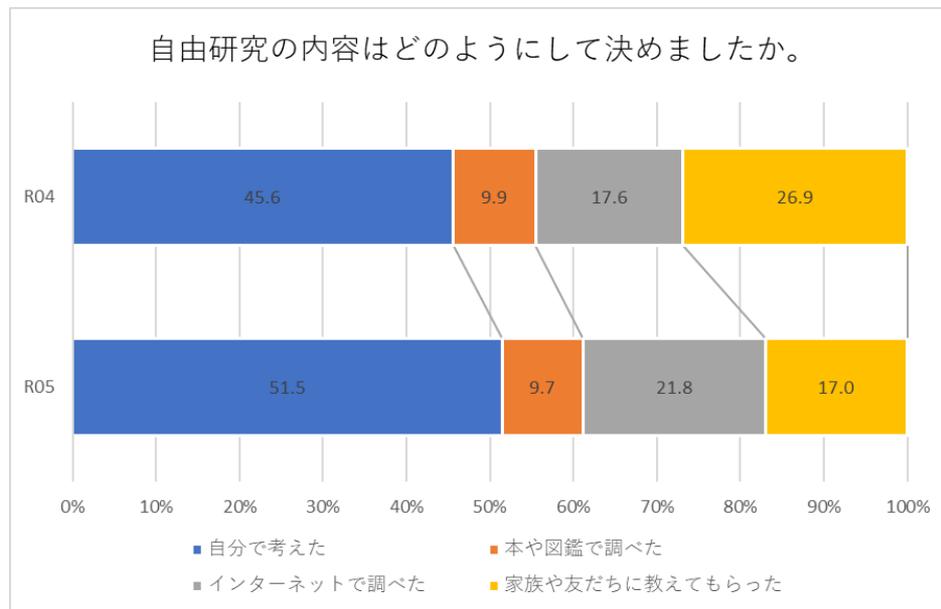
3. 発表の伝わり度



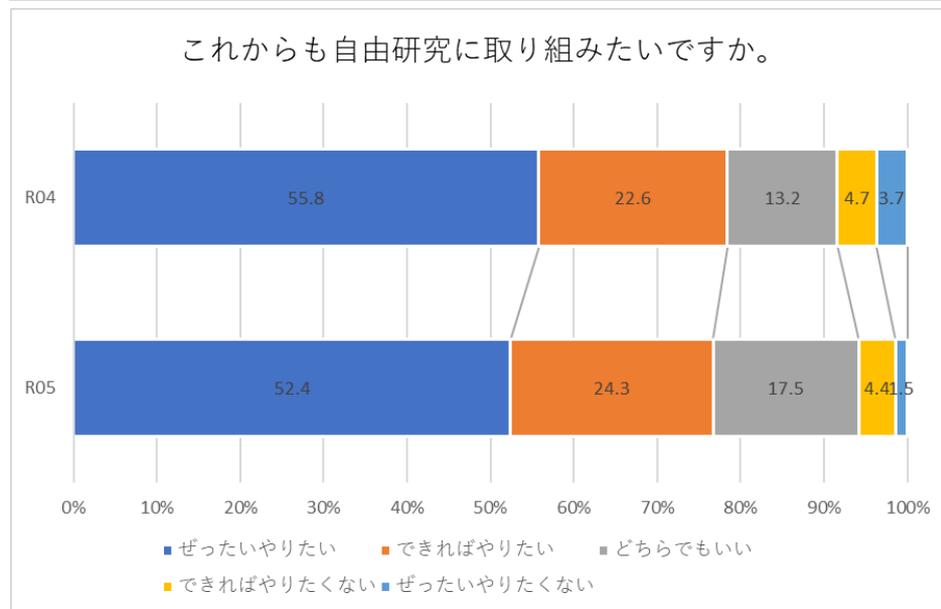
1. 自由研究発表会ふりかえりアンケート結果から

令和4、5年度の比較

【4】自由研究の内容はどのようにして決めましたか。	R04	R05
自分で考えた	45.6%	51.5%
本や図かんで調べた	9.9%	9.7%
インターネットで調べた	17.6%	21.8%
友だちや家ぞくにおしえてもらった	26.9%	17.0%



【5】これからも自由研究に取り組みたいですか。	R04	R05
ぜったいやりたい	55.8%	52.4%
できればやりたい	22.6%	24.3%
どちらでもいい	13.2%	17.5%
できればやりたくない	4.7%	4.4%
ぜったいやりたくない	3.7%	1.5%



1. 自由研究発表会ふりかえりアンケート結果から

令和4、5年度の比較

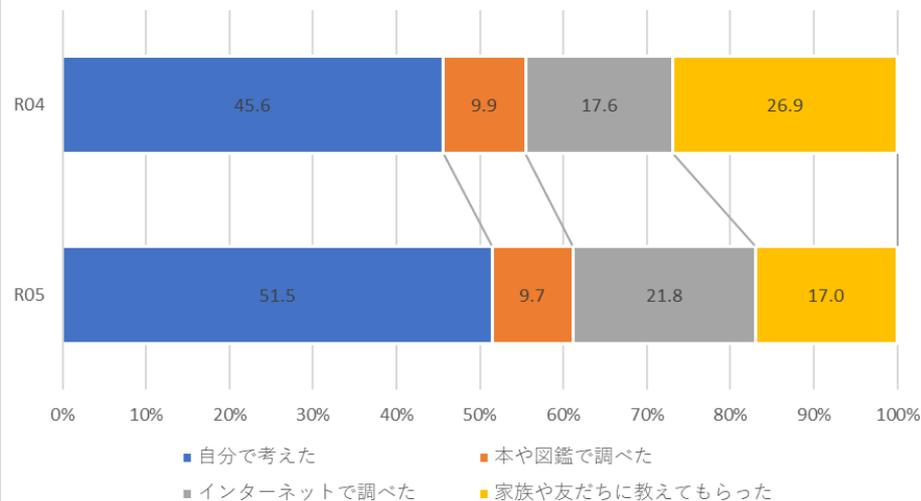
【4】自由研究の内容はどのようにして決めましたか。

- 自分で考えた児童が昨年度より増え、家族や友だちに教えてもらった児童が昨年度より減ったことは継続した取組の成果である。
- インターネットで調べた児童が増えたのは、GIGA端末の活用が進んでいる結果であると思われる。

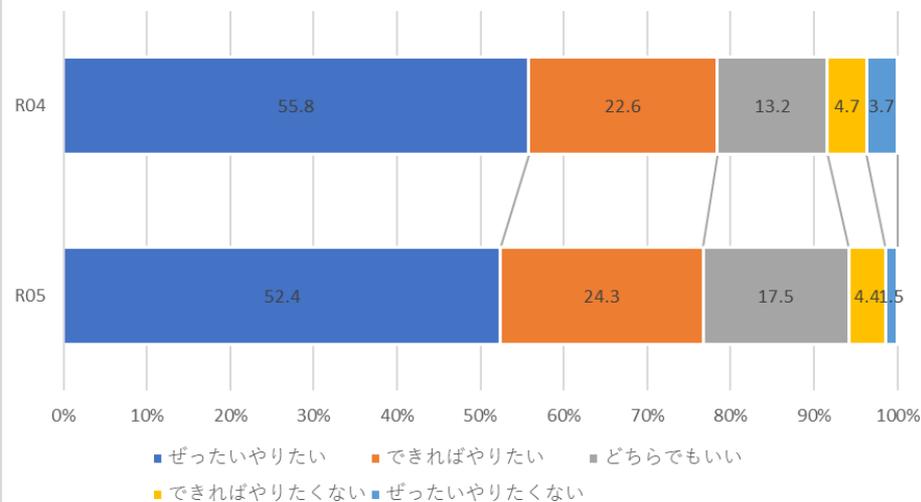
【5】これからも自由研究に取り組みたいですか。

- 絶対やりたい、できればやりたいの割合は減少したが、できればやりたくない、ぜったいやりたくないの割合が減少したことは大きい。
- 高学年になるとやりたくないと感じている割合が高くなる。

自由研究の内容はどのようにして決めましたか。



これからも自由研究に取り組みたいですか。



2. 表現力における「話し方」「見せ方」の自己評価から

発表における表現力の評価規準

	要素	話し方	要素	見せ方
低学年	姿勢	まっすぐたって	対象	じつぶつをみせて
	姿勢	きいているひとをみて	対象	しゃしんや、しりょうをみせて
	姿勢	きいているひとが、よくみえるばしょで	対象	えんぎしたり、うごかしたりして
	発声	口をしっかりとあけて、大きなこえで	動作	さししめして
	発声	こえの大きさや、はなすはやさにきをつけて	動作	おおきくして
中学年	発声	間の取り方を考えて	動作	身ぶり手ぶりを入れて
	話形	「です。ます。である。」を使い分けて	動作	大事なところに印をつけて
	話形	大切な言葉や部分を強めに	道具	大型テレビに部分や全体を映して
	反応	友だちの意見と、自分の意見をつなげて	道具	I C Tを使って（パワーポイントやロイロノートなど）
	反応	聞いている人の表情や反応を見ながら		
高学年	話形	丁寧語や敬語など、相手や場に応じた言葉づかいで	動作	キーワードを書いたり見せたりして
	話形	事実と意見を区別して	道具	電子資料や実物などを効果的に用いて（動画も含む）
	反応	受け手の反応を確認しながら	道具	発表に合ったI C Tを選んで
	反応	その場で説明を付け加えて	道具	I C Tの機能を効果的に活用して（アニメーション、音声など）
	反応	問いかけをしながら		

2. 表現力における「話し方」「見せ方」の自己評価から

6. 発表の「話し方」で、できるようになったことは何ですか。

	まっすぐたっ て	きいている人 をみて	きいている人 が、よくみえ るばしょで	口をしっかりと あけて、大き なこえで	こえの大きさ や、はなすは やさきにきをつ けて	
1年	83%	72%	90%	83%	83%	
2年	74%	68%	52%	45%	45%	
合計	78%	70%	70%	63%	63%	
	まの取り方を 考えて	「です。ます。 である。」を 使いわけて	大切な言葉や 分節を強めて	友だちの意見 と自分の意見 をつなげて	聞いている人 の表情や反応 を見ながら	受け手の反応 を確認しなが ら
3年	43%	71%	36%	32%	64%	32%
4年	43%	83%	43%	21%	66%	55%
合計	43%	79%	40%	25%	65%	47%
	ていねい語や 敬語など、相 手や場に応じ た言葉づかい で	事実と意見を 区別して	その場で説明 を付け加えて	問いかけをし ながら		
5年	63%	31%	40%	3%		
6年	65%	55%	84%	39%		
合計	64%	42%	61%	20%		

2. 表現力における「話し方」「見せ方」の自己評価から

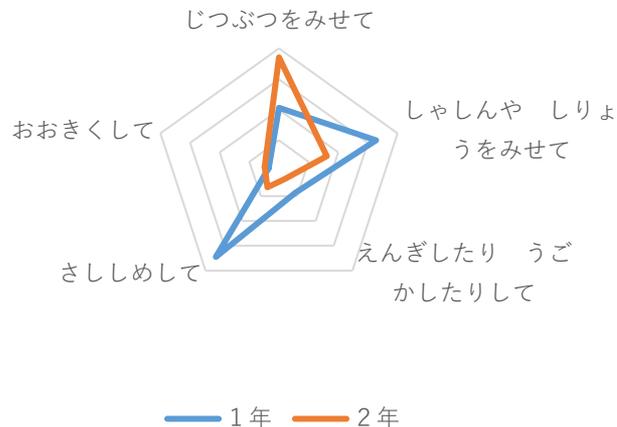
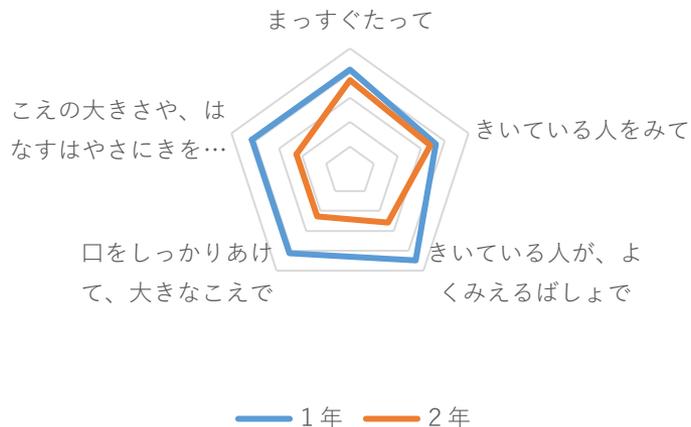
7. 発表の「見せ方」で、できるようになったことは何ですか。

	じつぶつをみせて	しゃしんやし りょうをみせて	えんぎしたり ごかしたりして	うさししめして	おおきくして
1年	41.4%	65.5%	17.2%	69.0%	6.9%
2年	74.2%	32.3%	6.5%	12.9%	9.7%
合計	58.3%	48.3%	11.7%	40.0%	8.3%
	身ぶり手ぶりを入 れて	大事なところに印 (丸やアンダーラ イン)をつけて	大型テレビに部分 や全体を映して	ICTを使って(ロ イロやパワーポイ ントなど)	
3年	60.7%	35.7%	21.4%	32.1%	
4年	57.4%	44.7%	23.4%	23.4%	
合計	58.7%	41.3%	22.7%	26.7%	
	キーワードを書い たり見せたりして	電子資料や実物な どを効果的に用い て(動画も含む)	発表に合ったICT を選んで	ICTの機能を効果 的に活用して(ア ニメーション、音 声など)	
5年	45.7%	54.3%	28.6%	22.9%	
6年	96.8%	48.4%	45.2%	38.7%	
合計	69.7%	51.5%	36.4%	30.3%	

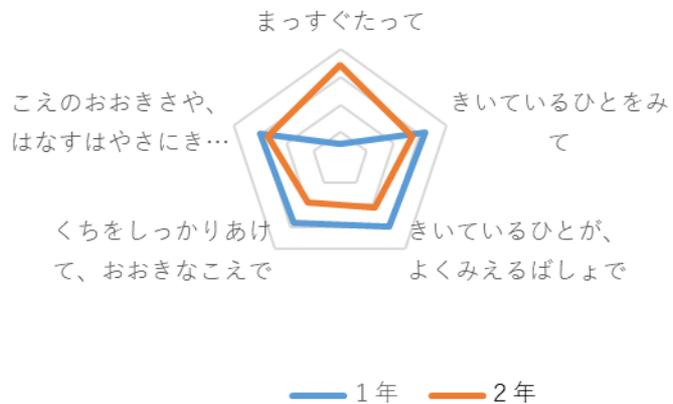
2. 表現力における「話し方」「見せ方」の自己評価から

6. 「話し方」でできるようになったこと

7. 「見せ方」でできるようになったこと



R04話し方 (1、2年)

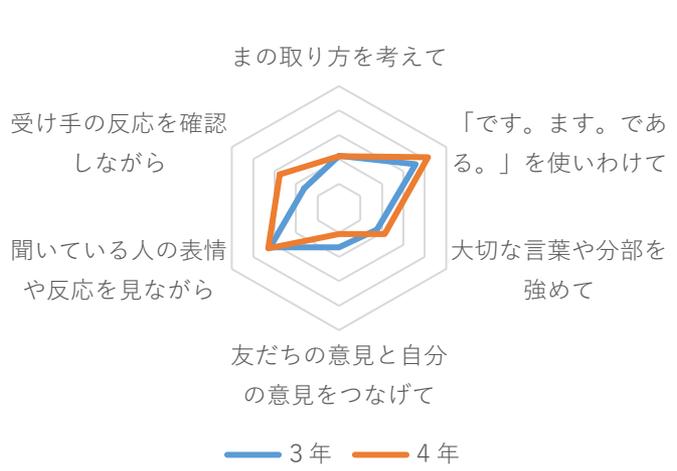


R04見せ方 (1、2年)

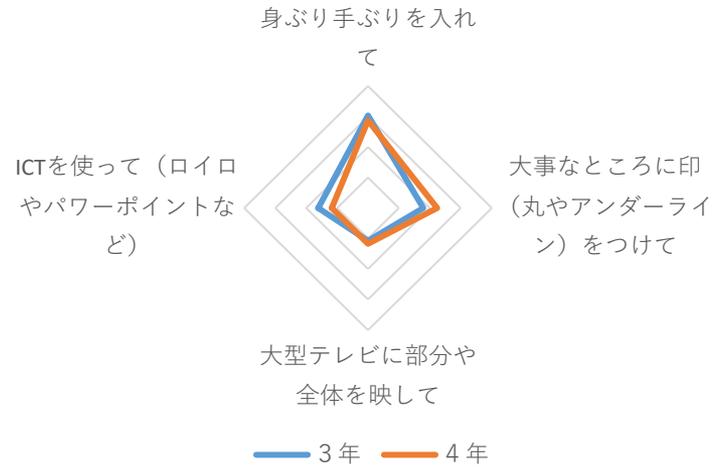


2. 表現力における「話し方」「見せ方」の自己評価から

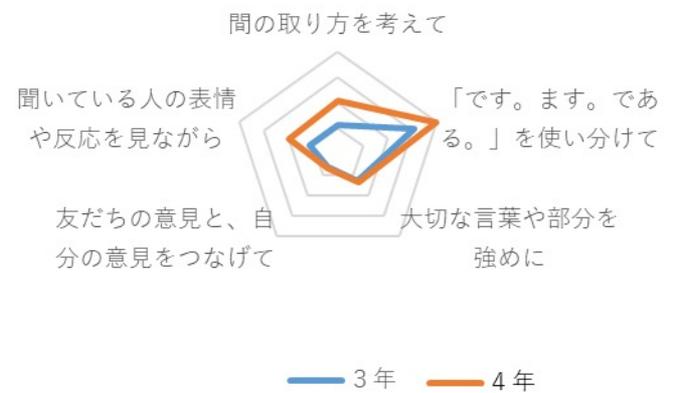
6. 「話し方」のできるようになったこと



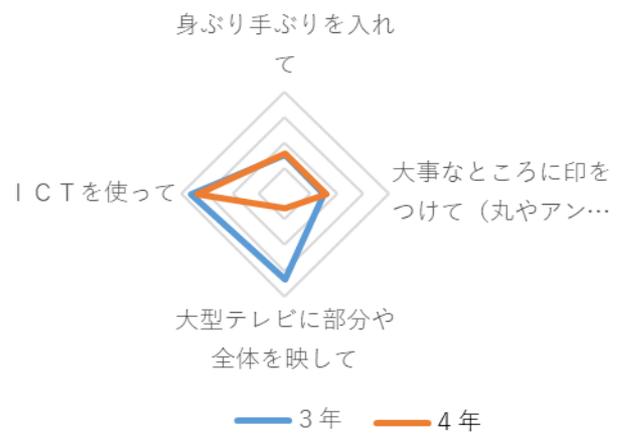
7. 「見せ方」のできるようになったこと



R04話し方（3、4年）



R04見せ方（3、4年）



2. 表現力における「話し方」「見せ方」の自己評価から

6. 「話し方」のできるようになったこと

ていねい語や敬語など、相手や場に応じた言葉づかいで



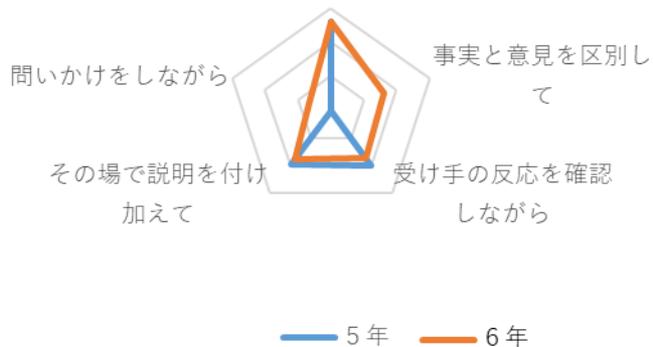
7. 「見せ方」のできるようになったこと

キーワードを書いたり見せたりして



R04話し方（5、6年）

丁寧語や敬語など、相手や場に応じた…



R04見せ方（5、6年）

キーワードを書いたり見せたりして



2. 表現力における「話し方」「見せ方」の自己評価から

- 評価の観点は同じだが、去年は集計にバラツキがあった。
- 今年度は、自分ができるようになったことを問う文言に変更した。
- 発表の形式や方法は去年と同じではない。

これらのことから単純に比較はできないので、現状把握と今後の課題を考察していく。

【成果】

- 低学年の話し方では、相手意識をもって話すことができる。
- 低学年の見せ方では、実物はそのものを、写真は指し示して見せるなど、見せたいものを意識することができる。
- 中学年の話し方では、相手意識に加え、言葉づかいを意識して話している。
- 中学年の見せ方では、身ぶり手ぶりを入れて相手を惹きつけようとしている。
- 高学年の話し方では、言葉づかいに加え、その場で説明を加えるなど、わかりやすく話そうとするなどすることができるようになってきた。
- 高学年の見せ方では、キーワードを見せるなど、相手に印象を与える見せ方ができるようになってきた。

2. 表現力における「話し方」「見せ方」の自己評価から

【課題と改善点】

- 発表形式によって評価結果が異なる。相対的にどれだけ「話す」「見せる」力が育成されたかではなく、その活動の場において、どのような情報活用能力が発揮されたかという見取りに適しているのではないか。
- 教師も児童も様々な学習場面で、情報活用能力をどのように発揮したかをチェックできる自己評価票があれば、総括的な評価も可能になってくるのではないか。
- 児童が客観的に評価できる設問内容の改善が必要である。
- モデルとなる「話し方」「見せ方」を示す必要性がある。
- 教科等の学習で情報活用能力の観点を選択し、「話し方」「見せ方」の学習活動とその評価を継続していく必要がある。
- 聞き方の力も同時に高めていく必要がある。
- 「見せて、話す」に加えて、理解を伴って「伝える」力の育成を図っていききたい。
- 「話す」「見せる」は情報活用能力の一部である。よりよく話し見せるためには、よりよく問題解決したり情報処理したりする活動が必要になる。「話す」「見せる」という切り口から情報活用能力の育成を捉えていくことが大切である。